

医療

知っておきたい医療知識

シリーズ 歯科治療最前線

子どもの虫歯は親の責任 乳歯時から常に子どもの口に関心を

「子どもの歯の治療と予防法」

毎年6月になると「歯の衛生週間」があります。小さい頃から健康な歯を維持し、80歳になっても20本以上の健康な歯を残すことを主眼にしています。そこで今回は「子どもの歯の治療と予防法」を取り上げてみました。

子どもの歯のケアは親の責任

生後約半年したら生え始めてくる乳歯。前歯から奥歯へと徐々に生え始め、3歳までで全て生え揃います。6歳頃になると今度は永久歯に永久歯に代わり始め、乳歯と永久歯の混在時期が小学校6年生から中学校1年生の頃まで続き、12歳前後で全て永久歯に生え代わります。特にこの時期に多く、注意しなければ



熊本インプラントセンター 添島 英輔 副院長 日本歯周病学会 会員 日本アンチエイジング歯科学会 理事

子どもの歯の歯科疾患の責任は親にあるといわれています。乳歯が生え永く歯に生え代わるまでの期間に何を注意しなければならぬのか。今回は「子どもの歯の治療と予防法」について、添島歯科医院(熊本市中央区桜町)の添島英輔副院長にお話を伺いました。

乳歯の総数は合計20本

子どもの歯の特徴などを教えてください。 A 子どもの歯、いわゆる乳歯は生後約6カ月くらいから下の前歯から徐々に生え始め、3歳頃までで全て生え揃います。歯の総数は上下各10本の合計20本で、永久歯より8本少ないんです。乳歯の特徴は永久歯と比べて歯の表面

いけないう歯科疾患は虫歯です。乳歯は永久歯と比べて大きさが形も少し違い、歯質も軟らかいためブラッシングを怠ると虫歯になりやすいんです。子どもが小さい頃は親がしっかりとブラッシングし、ブラッシングができるようになったら適切かどうかチェックするのも親の役目です。

虫歯になった子どもは、痛みがある程度出るまでは、親にもなかなか言いたがらないので、日頃から子どもの口の中に歯垢が溜まることも大事になります。痛みが出たら虫歯の症状が中等度から重度近くまで進んでいると考えると、早急に対応する必要があります。また、6歳頃からは乳歯が抜け始め永久歯に代わっていき、乳歯が抜け残ったままでは、永久歯が変な方向から生えてきたりするケースもありますので、その場合は早目に歯科医に相談してください。

一度生えた永久歯は年を重ねるごとに徐々に成長していきますが、若い頃の永久歯は乳歯と同じように虫歯になるリスクが高いため、予防することが大事です。乳歯は永久歯に生え代わりますので、仮に虫歯になっても取り返しがききますが、永久歯は罹患すれば元に戻ることなく修復するしかできません。80歳で20本以上の健康な歯を維持するためには、難しいことにトライしなくても、小さい頃からの適切なブラッシングと、歯科医院での定期的なケアさえ行えば十分可能です。歯の健康維持は健康増進の原点ともいわれています。

熊本市の歯科医は「子どもさん」が求められる家庭では、小さい頃からでも歯の大切さについて会話されると、子どもも歯に関心をもち、予防効果も高まります。と話しています。この点も参考になるのではないですか。 A そうですね。歯の形がシャープで溝もやや深め、歯の根は短く、歯の質も永久歯に比べて軟らかいです。 A 乳歯の時に多い歯科疾患で、一番注意しなければいけないのは、 A やはり虫歯ですね。乳歯は溝の部分に歯垢が溜まりやすく、歯が柔らかいため虫歯になる確率も高まります。罹患すると進行も早いので、一番注意しなければならぬ歯科疾患といえます。次に歯茎の炎症の歯肉炎、病気で歯が抜けやすくなります。歯の外傷による脱臼などもあります。これらが主なものとして成人に多い歯周病はほとんどありません。

専門医からのアドバイス Q&A

「子どもの歯の治療と予防法」

子どもの歯の形がシャープで溝もやや深め、歯の根は短く、歯の質も永久歯に比べて軟らかいです。 A 乳歯の時に多い歯科疾患で、一番注意しなければいけないのは、 A やはり虫歯ですね。乳歯は溝の部分に歯垢が溜まりやすく、歯が柔らかいため虫歯になる確率も高まります。罹患すると進行も早いので、一番注意しなければならぬ歯科疾患といえます。次に歯茎の炎症の歯肉炎、病気で歯が抜けやすくなります。歯の外傷による脱臼などもあります。これらが主なものとして成人に多い歯周病はほとんどありません。

一度生えた永久歯は年を重ねるごとに徐々に成長していきますが、若い頃の永久歯は乳歯と同じように虫歯になるリスクが高いため、予防することが大事です。乳歯は永久歯に生え代わりますので、仮に虫歯になっても取り返しがききますが、永久歯は罹患すれば元に戻ることなく修復するしかできません。80歳で20本以上の健康な歯を維持するためには、難しいことにトライしなくても、小さい頃からの適切なブラッシングと、歯科医院での定期的なケアさえ行えば十分可能です。歯の健康維持は健康増進の原点ともいわれています。



家庭での普段の会話で歯の話題も

歯並びは顎の発育が大きく影響 A 乳歯から永久歯に生え代わる時期や歯並びで注意する点は、 A 個人差はありますが、永久歯は平均して6歳頃からはじめ、12歳前後で全て生え代わります。本来、乳歯の下で永久歯が成長し、乳歯を押し上げ

一度生えた永久歯は年を重ねるごとに徐々に成長していきますが、若い頃の永久歯は乳歯と同じように虫歯になるリスクが高いため、予防することが大事です。乳歯は永久歯に生え代わりますので、仮に虫歯になっても取り返しがききますが、永久歯は罹患すれば元に戻ることなく修復するしかできません。80歳で20本以上の健康な歯を維持するためには、難しいことにトライしなくても、小さい頃からの適切なブラッシングと、歯科医院での定期的なケアさえ行えば十分可能です。歯の健康維持は健康増進の原点ともいわれています。

熊本インプラントセンター 添島歯科医院 熊本市中央区桜町1-28 桜町センタービル205 0120-354-508

一 哲正さん(70) 熊本県しろあり対策協会 会長 (熊本市中央区水前寺2丁目) 4月に県内のシロアリ防除事業者などで設立。環境に配慮したシロアリ防除サービスの推進を柱に、会員向けの技術向上など目指した勉強会なども定期的に開催していきます。重要文化財などにかかるシロアリ調査や防除ボランティアなどにも取り組み、今年には国宝・青井阿蘇神社の調査ボランティアも行いました。

岩崎 美里緒さん(38) 更紗空木 オーナー (熊本市南区田井島1丁目) テトックス、リンパマッサージサロンを経営。当店ではお客様の肌質と体質の改善により、エステのいらない別と体づくりを目指します。また東日本大震災以降は、2、3カ月に一度、チャリティーイベントを開催し、売上を義援金として被災者をサポートする方々に渡しています。今後も自分の能力を生かして人々に希望と元気を届ける活動を続けていきます。

富山 孝治さん(42) システムフォレスト 社長 (人吉市西間町) ソフトウェア設計やプログラム開発、クラウドサービスなどを行っており、月額費用7980円のホームページ作成ツールの売上げが好調のほか、クラウドを使ったシステムコンサルティングなどが幅広い業種の方から支持されています。さらなる事業拡大を目指し、このほど熊本市中央区水前寺6丁目の熊本オフィスを同区平成3丁目に移転しましたよ。

赤塚 智哉さん(35) 赤塚税理士事務所 税理士 (熊本市北区津浦町) 大阪・名古屋での経験を経て、地元熊本で税理士事務所を開業。医療関連やサービス業などを中心に税務に関する相談や経営に関するサポートのほか、助成金の申請や保険・事業承継など将来を見据えた財産形成のサポートにも力を入れています。「おもいやり」「おもてなし」「おんがえし」を経営理念に、頑張る経営者をサポートしていきます。

「子どもの歯の治療と予防法」 添島 英輔 副院長 日本歯周病学会 会員 日本アンチエイジング歯科学会 理事

シリーズ コミュニケーション講座 魅力ある人間力アップに向けて (第10回)

「子どもの決断」



コミュニケーション アドバイザー 津川 育子

「お母さん、あなたは僕をとて愛して、僕をあなたのポケットに入れてたがっている。そしてそのポケットの中では、僕は息が詰まって死んでしまおうんです」 これは、イギリスの小説家、デーヴィット・ハーバート・ローレンスの言葉です。 私も息子を持つ身です。大切に育ててきた息子のことを、大切に思う気持ちもよく分かります。息子に幸せになってもらいたいと願うのも母親としては、当たり前前の感情です。 先日、仕事でお世話になっていた方々と一緒に食事をした際、親子の関係を考えさせられる出来事がありました。私は、息子が結婚することになった時、「私の息子の事を好きになってくれたお嫁さん」にとても感謝したい気持ちになりました。だって、世の中にはこんなにたくさんのお嫁さんがいるのに、その中で息子を選んで、結婚を望んでくれたんです。 それを笑って話していたら、息子と同年代の方々がものすごくびっくりされたんです。なんでも、自分達が結婚を望んだ時、母親は相手の女性に対して、母親として、女性としての意見が多く、少し否定的な見方をされるらしいのです。だから、相手がどんな人か否かではなく、相手が息子を選んでくれた事実を単純に喜んだ私に驚いた

よく、コミュニケーションの相談を受けている時、息子の事を「恋人」のように感じているお母さんがいらつしやいます。息子に彼女ができた時、まるで自分の恋人を奪われたような寂しい気持ちになり、息子のお相手の「粗さがし」をしてしまうのです。 息子を大切に思い、息子をとて愛している。けれどももしかしら、冒頭の言葉にあるように、それは息子をポケットの中に入れてたがっているだけなのかもしれません。 ローレンスが言ったように、母からのプレッシャーで息子が窒息してしまつては、幸せを願うことなど出来ませんよね。子どもは親のアクセサリーでもペットでもありません。でも、他の方から見られる時の事や見栄などが邪魔している時、少し考えてみましょう。 子どもの幸せってなんでしよう。愛する人と愛する家庭を育んでいく。そこには二人の責任のもとに家庭生活が生まれます。しかし、長い人生、その家庭がうまくいかなくなることもあるかもしれません。でも、それも自分で選んだ人生だから自分で責任がとれるものではないでしょうか。 時には子どもの決断を尊重し、かつそれを応援してあげることが大切なのかもしれないと、彼らとの会話で再確認しました。

お問い合わせ 096-342-9733 ikuko.t@eagle.ocn.ne.jp